

ふくしま青年海外協力隊の会

NEWS 2013

今年度、当会が主催/協力/参加した数々の事業、イベントをOVのエッセイから振り返ります。

平成24年度は、震災から2年目となり復興元年と言われていましたが、皆さんの生活環境の改善は進みましたか。私の家は幸い地震での被害が少なかったため、放射線量のことは気にせずにご過ごすことで、震災事前の生活パターンをほぼ取り戻すことができました。さて、3月31日の相馬での国際交流イベントのボランティア参加により今年度の事業がすべて終了となりました。それぞれの事業担当の皆さんはじめ活動に参加していただいたOVの皆さんありがとうございました。個人的にはもっと積極的に事業に参加しているはずでしたが、実際には思っていたことの半分も参加できずに終わってしまいました。さて、なんと協力隊の参加希望者が減少しているそうです。さまざまな原因があるように言われていますが、今まで以上に我々OVとして、募集説明、帰国体験報告などで協力していければと思います。

小杉 誠 (59-2 ネパール) ”会長の独り言”

01

ユース国際協力ミーティング 11/17-18 JICA 二本松

昨年11月17日(土)・18日(日)の二日間、県内から集まった44名の高校生を対象に、JICA二本松に於いて「ユース国際協力ミーティング2012」が開催されました。各OVが派遣国で体験したことをもとに創り上げたオリジナルの講座、協力隊体験談等を通して、「自分たちにできる国際協力」について真剣に考え、自分と向き合う高校生たちの姿にとっても感動しました。「参加してよかった!」「来年もまた来ます!」という声も多く、充実した二日間となりました。今回は、これまでユースを支えてきたOVの方々に加え、熱心な新しい会員の力で創り上げ、無事開催することができました。次年度も皆様方のご協力をよろしくお願い致します。 松本大光(21-1 モンゴル)

02

協力隊ナビ 11/11 白河・1/27 三春

協力隊に興味関心のある方々に協力隊活動についてより知ってもらうことを目的に、お茶などを飲みながら楽しい雰囲気の中で語り合えるようにしました。白河にある「マイタウン白河」で行われた協力隊ナビでは、参加者は2名でしたが、協力隊にとっても関心のある方々で、協力隊になるための試験や実際の協力隊の活動など熱心に質問し、OVの話に耳を傾けていました。協力隊OVが用意したおいしいベトナムコーヒーを飲みながら、楽しい時間を過ごすことができました♪ 今後も、一人でも多くの方に協力隊について気軽に知ってもらえる機会になればと思っています。

菊地亜耶 (17-1 ホンジュラス)



Contents

- 01 ユース国際協力ミーティング
- 02 協力隊ナビ
- 03 開発教育研修会
- 04 地球体験キャラバン
- 05 福島応援バスツアー
- 06 留守家族連絡会
- 07 徳島サマーキャンプ
- 08 JICA エッセイコンテスト
- 09 結・ゆいフェスタ
- 10 会津若松国際交流フェス
- 11 相馬わくわくフェスタ

発行：ふくしま
青年海外協力隊の会
発行日：2013/4/23
編集：金山忍 (21-4 タイ)
HP：http://foca.jocv.net

03

開発教育研修会 1/20 二本松市民センター

協力隊経験を福島のために
今、わたしたちにできること

文：橋本秀憲(JICA 職員) 橋本千賀子(14-1 パラグアイ)

今年度の開発教育研修会はちょっと趣向を変え『協力隊経験を福島のために。今、わたしたちにできること』と題し、福島県外出身の JOCV の OB・OG である、H12-3 ウズベキスタン看護師の竹村和子 OG (福島県看護協会保健師として田村市にて活動/兵庫県出身)、H21-2 チュニジア作業療法士の清山真琴 OG (ふくしま心のケアセンター南相馬駐在作業療法士/宮崎県出身)、H7-2 ケニア理数科教師の池田直樹 OB (いわき市立中学校理科教員/愛知県出身)、H19-1 マラウイエイズ対策の中村雄弥 OB (セーブザチルドレン会津若松事務所プログラムオフィサー/愛知県出身)、そして JICA の三村職員 (福島大学うつくしまふくしま未来支援センター連携研究員/神奈川県出身) が自身の活動内容について発表した後、質疑応答が行われました。その中では、例え同じ日本人であっても、県外出身者による被災者支援活動は、外部者による活動である JOCV の経験が活かせる場であり、大きなやりがいを感じる一方、ミスコミュニケーション (助けが必要であってもなかなか表に出さない福島の県民性や方言) やマンパワー不足等の課題も同時に感じているとの話がありました。また、今後の福島での支援活動全体における主な課題としては、①やりがいや生きがいを感じられる自立的な生活を実現するための支援の実施、②支援の重複・偏りの回避、③世界の防災に役立てるべく福島の経験を積極的に発信すること、等が挙げられ、会は終了しました。

最後に、清山さんからの発表にありました一編の詩を紹介したいと思います。

「ハチドリのひとしずく」

森が燃えていました。森の生き物たちは、われ先にと逃げて行きました。でもクリキンディという名のハチドリはいたりきたり、口ばしで水のひとしずくを一滴ずつ運んでは火の上にと落ちていきます。動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」といって笑います。クリキンディはこう答えました。「私は、私にできることをしているだけ」



04

地球体験キャラバン

- 7/9 県立大笹生養護学校
- 7/25 岩瀬公民館
- 8/21 都路公民館
- 9/8 熱塩加納村公民館
- 9/15 大槻東公民館
- 11/10 郡山薫地域公民館
- 11/24 いわき市草野公民館
- 12/1 郡山市赤木地区
- 2/9 高瀬地域公民館



-キャラバンに参加して-

初めてキャラバンに参加させていただきました。始まる前は堅い表情の子どもたちがプログラムが進むにつれ、目をキラキラさせながら楽しそうに活動する姿が印象に残っています。子どもたちが世界に目を向けるきっかけになることを願います。三上 博史 (19-2 エジプト)

田村市都路の子供たちへ (キャラバンの感想に代えて)

地球キャラバンの異文化体験を存分に楽しんだかな? たいへんな避難生活の中でも、避難生活を終えてふるさとの都路の日常に戻ってからも、キャラバンで出会った楽しい外人さんたち、チョット変な日本人たちのことを思い出して、元気に笑顔で過ごそうね。皆さんの少しはにかんだ笑顔は、同じ避難生活を続けていく私を笑顔にさせ癒されます。皆さんのふるさとの先輩として、同じ避難生活者として、そして皆さんに避難を強いている会社の一人の社員として、みなさんへ贈ります。「アッサラマレクン。ジェルジェフ、サマハリ (セネガルの言葉で”あなたに安らぎがありますように。ありがとう、わが友”の意味)」 川崎 豊 (1-2 セネガル)

05

福島応援バスツアー

3/23-24

東日本大震災後の福島県内の現状を全国のOVに知っていただきたいと企画した昨年の「ボランティア同窓会 in 二本松」に続き、今年も3月23～24日に「ふくしま応援ツアー」を行いました。当初応募が少なく、開催が危ぶまれるほどでしたが、最終的には北海道から宮崎まで全国各地から80名のOVと関係者にご参加いただきました。浪江町長 馬場有氏の講話をはじめ、福島市で農園を営む後藤OB、福島県国際交流協会に勤務する幕田OGにもお話しいただき、相双地区に住む鈴木進一OB、高橋司OB、植木恭子OG、清山真琴OGにガイド役を務めていただきました。運営面でも当会のメンバー19名にご協力をいただき、昨年の同窓会運営の経験を生かしてスムーズに進行できました。今年はJOCA等からの経費的なサポートがなく、実施すべきかどうか悩みました。しかし、ツアー終了時に回収したアンケートには、ツアーに参加したことで心を大きく動かされたという声が多数あり、実施して良かったと思えました。福島の復興と風評被害の払拭のために、私達にできる一つの取り組みとして、ツアーを継続していくという選択もあるのではないのでしょうか。皆様のご意見をぜひお寄せください。

小熊 則子 (H2-3 サモア)

07

徳島サマーキャンプ

8/17-21



「福島の復興のために、できることがあればいい。高校生を夏休みに徳島に招待したいのだが…」という徳島県青年海外協力協会の溝上均事務局長からのメールが届いたのは、2012年4月でした。福島・徳島間の距離をものともせず、たくさんの方のメールのやり取りと2度の東京での打ち合わせを経て、8月17日から4泊5日で徳島サマーキャンプを実施しました。県内各地から応募してくれた高校生16名と、引率の佐藤知史OB、橋本千賀子OGは、徳島県上勝町で国際的視野を広げるすばらしい経験をたくさんさせていただきました。本キャンプに参加した高校生が、その後県内で行われたユース国際協力ミーティングやグローバルセミナーにも参加し、活躍しています。また、本キャンプでの経験を推薦入試の自己PRの中心に据え、見事県内の大学に合格したという吉報もいただきました。彼はよく物事を考えている生徒でしたが、口数は多い方ではありませんでした。しかし彼は、「自分が将来働きたいと思っている国際協力の分野には、積極的な人だけに関わっているのかと思っていたが、自分のように派手さはないが、地道に取り組める縁の下の力持ち的な人もいることがわかった。いろいろな人がいるから国際協力が成り立っているのだと協力隊OBの姿を見て思った。自分にできることもきっとあると思うので、その一員になれるよう努力していきたい。」と担任教諭に語ってくれたそうです。彼らのこれからの活躍が楽しみです。

小熊則子 (H2-3 サモア)

06

留守家族連絡会

1/9

1月19日(土)昨年度に引き続き二本松市民交流センターにて、JICA ボランティア帰国報告会と併せての実施となりました。今回は派遣中青年海外協力隊員のご家族8名、また当会からも30名近い参加があり、特にプログラム中の個別懇談の時間には例年以上の賑わいを見せました。メールやスカイプ等、通信手段が多様化し、隊員と頻りに連絡を取られているご家族の方がほとんどではありましたが、それだけに一層、支援団体・JICAからの直接の支援体制説明、そして当会会員との個別懇談が、隊員ご家族との顔の見える繋がり強化、その抱える不安の軽減につながり、留守家族連絡会が果たす役割の大きさを再認識する機会となりました。

佐藤 翔 (21-2 ウガンダ)

08

JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト

今年度も、JICA 国際協力中学生エッセイコンテスト 2012 が行われ、福島県の 1 次審査会を平成 24 年 10 月 20 日（土）～21 日（日）、相馬市で行いました。1,519 作品から 10 作品を選出し、東京での 2 次審査へ送りました。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故やいじめ問題、領土問題など、多感な中学生の経験したことや感じたこと、考えたことが表現されており、「福島の中学生だからこそ」の内容を感じました。今回は「相馬復興の気持ちも届けたい」という思いもあり、高橋司さんの勤務する「原釜幼稚園講堂」をお借りして審査したり、松川浦の復興した旅館で食事や宿泊したりしました。昨年、春の総会で言った「エッセイコンテストは相馬で開催！」が実現出来たことは、相馬の高橋司さんと担当の鈴木進一さんの熱い思いのおかげです。（審査員は、一般審査員の竹島さん、高橋司さん、鈴木進一さん、清山真琴さん、金山協子さん、渡辺英彦さん、渡邊恭子さん、植木恭子さん、橋本千賀子さん、齋藤智恵子です）
齋藤 智恵子 (H8-1 タイ)

09

結・ゆい・フェスタ 2012 9/23

昨年の 9 月 23 日（日）に毎年恒例の福島市国際交流協会主催「結・ゆい・フェスタ 2012」が開催され参加しましたので報告しま～す。今回の我々の出し物は、インドネシアカレーを 2 種類（星さんご夫婦のご指導）と、「マイ・缶バッチ作り」（渡辺恭子さんご協力）で、見事 100 食完売でした。「当日の参加者は 15 名位だったかな？」と、言うのも他の団体のブースとの掛け持ち者もいるし、お客さんも多かったし、とにかく始めから後片付けまで人がごちゃごちゃ・ワイワイと自由に楽しく盛り上がりしました。皆さんには「任国の市場のようだった」といったら分かり易いかも知れません。ここで“任国の市場をもう一度！”と思った方は、今年の 9 月まで待っててくださいね。始める前は「上手くいくかな？」と思うけれど、やってみると『楽しくてエネルギー全開、大成功！』なんだよね。不思議だね(笑)
渡邊一代（ベトナム）



10

会津若松市国際交流フェスティバル 10/13

OV 会ブースは今年度も多くの訪問客がありました。民族衣装に身を包んで華やかな結城巫耶（ホンジュラス）・山内伸江（セントビンセント）・木鋤美幸（マレーシア）OV が任国クイズを担当。JOCV 広報を友田洋（ニカラグア）OV がにこやかに応対。シニアの森田久夫 OV はパナマグッズを賑やかに飾り付けてくれました。今年度は民族衣装試着コーナーを開設。お気に入りとなったミャンマーのピンクの衣装を着たまま会場を一周した子は、大きくなったらその国にその衣装を買いに行くそうです。パラグアイのふわふわダンサー衣装でターンをしてみせる子、友人 3 人と記念撮影する子供達、チャイナドレスを着せられて固まる幼児、若いお父さんがキラキラビーズのたくさん付いた衣装を着てポーズ、何着も試着したがるお父さん。「どこの国の衣装ですか」「その国はどこにありますか」そして「豪華な衣装ですね」お母さんからは「洗濯はどうやるんでしょうね」身近なところから世界の国々を知る・関心を持つきっかけとなればうれしいことです。
中田ひろみ（63-2 ホンジュラス）

11

相馬わくわくフェスタ 3/31

3 月 31 日、小雪の舞う中、相馬で唯一の国際イベント「わくわくワールドフェスタ in Soma」がはまなす館で行われ、例年以上の集客で外の寒さはなんのその、会場はアツアツに盛り上がりしていました。FOCA として、協力隊ナビと缶バッチ制作をしながらメキシコブースとしてもタコスの販売をしましたがみなさんの頑張りもあり、どちら大盛況で、用意した募集要項もほぼ配付完了して、相馬に『FOCA の風』を吹かせることができたのではないかと思います。相馬開拓の歴史が開かれたように感じましたのでこれからも引き続き参加できればと願います！！ 高橋 司（17-2 メキシコ）